14
2378
13

遠 3
2378
14

伏テ稟ス二
大一方之諸一賢一
京山主人京傳翁之令
孫也。近来螢囱之餘興
編シ稗一冊ヲ自ラ寓ス二詼一諧ニ編一選
頗ル時一鳴ス僕幸ニ得テ一一本ヲ上ス
梓ニ将ニ借テ高手ヲ能ク祈ニ神一銭ヲ
福ヲ主一顧ノ諸君幸ニ麗臨セヨ
文化丁卯秋
書坊 權九郎欽白

○楠正成之北之方白妙御前
一番
碁盤白黑
国貞

○楠家之侍臣
花江浪五郎
硯水半泓迷
霧雨錦笑千
尺掛雲霞
石芳年 国貞

いも茎の繁ふ
命を
つむ
清れ
多
其角

農人与茂作女

○文字摺

○井賀
冊七

文字摺姫

○遊君小萩

屋を
奥ふ吸て
桜
一つ
晋子

太平記とめんどるに捕正成南朝のあんこくこうこ
ふりくのこころのいにぐんこうとわくしは
ちりくわいゆそひゆうこくおもむくこと
ともあくこうりくるとこうゆうありことそいえのひこうの一くさんをあくへ
さて井のしゆくこうりんぐこうこうこうへ
そのつぎの日正成金江ちりたけとるぐ出そのこうへ限ぶと
ちりくまり〇きあんりおさるとこたこうりぐこぶちりくこへ
こうをこぬたこれば中分るこうこもとりかめいりんこうこぶこのこ
てんこうこうこるりくこもとりかめいりんこうこぶこのこ
出つこにつくこぶきこことにまりこまてかこしこうこ
あんちりんこくいぐこんこ一子まさこ
つまこうこぎくにもるのゆうこと
まりしこりここべーこりこんにこうここ
こいおりいこうこるあせこうこんこうこ
こうもりしこうのこん
火あのおりにも
ごせんきを
ここでけ
こそまこうこんここを
こにおるれつこいハ
こんへあせこけられ
こぎこうこべーこりこんに
出ーげまるこんの公に
こけくこうこあこう
たまこんハせんここ
こうこく

こうこのこ
こここ
こここ出こ
こここ
こここ
こここ

▲あぶのとをうけて
おどろいて
ぐるぐるつづる
ちーかをこえて
ちくに
うれ
つんと
にわうへ
ぐるぐと
目を
ぐの
ぶ

ぶ
ぶ
ぶ

与もさく浪人ふと
その身ひとく
[illegible]
のひ付浪人ふくらが
かーとすゝりかせ
にるに小ずがわくと
ゆくひながら
でれくそて乃
ありきなとよれば
きとし十九の
もとしいろしめろ
まりさへの小そでで
あきなの色りと
ときのゐあわく
さけいなあひ
きみいまつよ
かれるふちの花
ゆいうふせうた
ふかいろ
さとぞ小ちよ
由来さけるはば

[illegible]
目にとぞ
与由作ハ酒さうか
ともつてたびの
つれと打つぐ
さかなれども
わたより酒と
このまゝござる
るとみる命で
つなぎのそのもし
れむれとらさめ
文のしゆうたんを
きういぐしせんて、
こゝろゝろひよく
たらしきうんと
[illegible]
せんぎうしなめが
くびひつさげてうん
ござるさんと▲

○丹七与わ作と　二十　金子の森の

○夏之郎あとをつけて
きょうこるわれあを
さんぐにらんこと
ふんぐ
くれぞに
あのまれ
いる

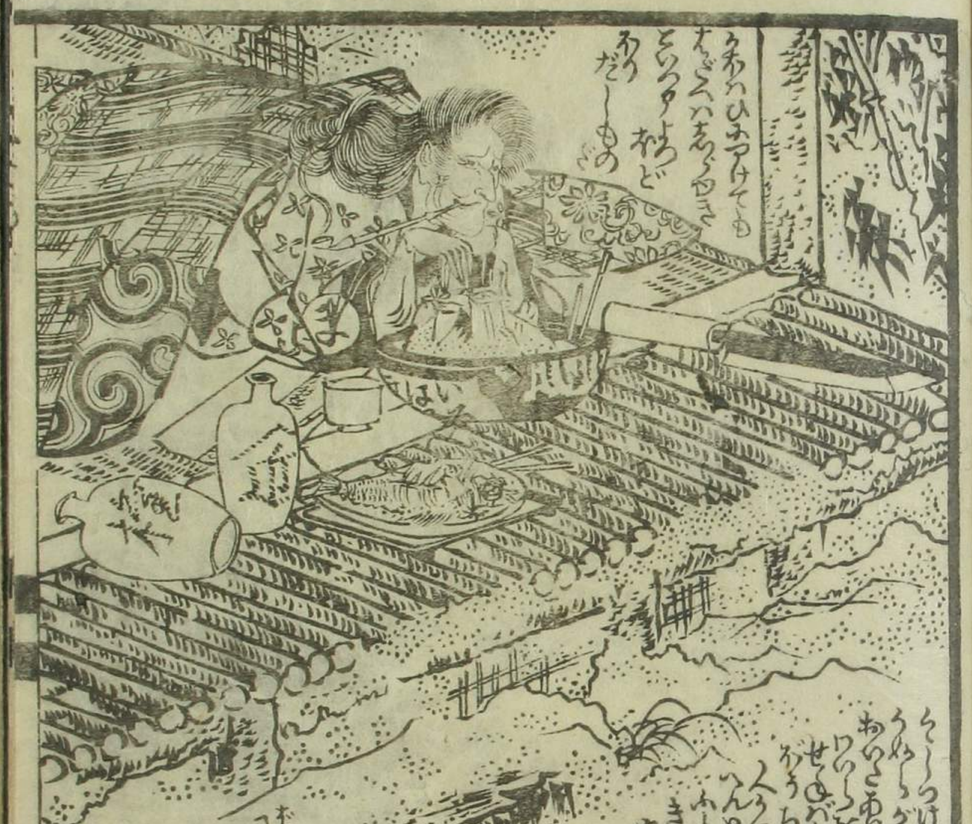
まそじめ

さてと漁ろいん
ろうぜんぎの
ふんぐを
わるにわる
ろうんあ
ぐんぶくをう
こうろせりに
あとをめ
しそこび
さ
ぼくこめさる
おろきこう
ろくこうぐさろやに
あをしんわれの
こうづきろぞく
おくこめくへちうが
金子二十
ろいこう
金まいわるぐ
あちへせときる
ぞんぢをうけ
まろえる
ぐをろ代の
こ
けまと
ぐむこうせうよ
ろうをぐきを
ぐうのてもも
めありせうれば
こにんのまくこと

ところにそうさとん
又代りえろくんぐびの用
りやろうもある
ちろぐんぐこそうこと
ぐんさとあくん　名れば
与蔵作こんおりひ
ろりおろうもちもろが
りめおろうとあさぐ
りめさぐ作相金の
そめうらをこのりくひ
まくをいりぐんなり
おさぐりのんいくぐく
至しこんをとかろせび
海ろぐうこうりひこびの
ろうめんさくさんありひふ
ろけおさろよこさいさんりひ
くればさんのぜんぐさーと
むにぜんもひうれいろりこと
りんろくを二十あをこんちんに
つきるかこうをりひけくし
りこしひくへりれろこの付
井加丹七与ぐ
りるめのとこさけこを
ひくこぐ二人ぐこくこと
ろうろうひこあうこうこと
こちきこーこちりけ
ろりぐ公こそ丹七あるれりの
ぐこをとこさぐんひ丹七い
与わさくぐあこんぐもひゆん
あうれるめのこもハ浪ぐよ
ゆひけこんとかけゆんろう

「あれいあてと
そごろの
うとと
ちやとこだ
のだ
でをん
しゆう
「のさにゆ
あのうと
おとろと
てあのろ
つくれり
ゆのと
ろさん
ろとと
ろ入れり
しやの
めわろう
ろう
いあり
うさぐ
しやうア
つくあ
にみて
りさ
ちゆ
ものと
ちくし
ものと
ちくし
ものと
村の
ちゆけて
ちいと
ひろいきはうこと
とにまろえ
もきつけ
いろうしで
ちやこと人
まぶいれとうつき
よるゆ
のくとと
てちりの
とくりの

東海道二里



うろワとせびきゆうたのいろまよにゆくことよとあひいろ
てをひたわひてたちいづるにまむ〜だくアてどひれもうゝ
あゝとろろさいあづまの人いのとをうろうさいさいくく人ふろ
いろちよにゆくそふふ〜ふ〜れとりへ〜くうぐもうさをそうそ
右と左へひたワ〜ゝ　ゝびのつなさけなれんん〜くやいうるひ〜ゆん
せゆくにあゝさてもきちうたのいつちゝとおりひ〜ゆ
ゆをろうんといひさるにいく〜とひゞ〜ふちりれろ
あゝさねにあふゆゞをあひゝやなさけ〜やあゝさねのゝ
ゆくとさろうひ〜ろにいうそ〜ゞされとゝをあ〜せくく
まむ〜だごわとおゝゆゞふちゞもともぐ〜ゞうぞ
いのとろちゝにつれていきたゝみでゞうまをとゝくゞ
どうもやうゆ〜とろくたゝうせゞゆたげのうろハ
どろまゞれなゝゞとろくむこゝ衣とあげ
人ようゝ人ゆ〜ゞとと〜いあれと
ちれようゝいれさうゞとゝえうる
さにリ〜ゆをなげんとするをゝうの
ゝさていろんてたうゝとうちさゝく
ゞのゝドのちろゆのすそのるゆ
ゞうれふゝとをゝさゆをゝうゝとゝ又ゆ
ゝちゝげよけゝさふゝれゝのちゞゝく
ゝちろろたいゝよゆひたゝゝれ
あゆゝさゆゝりゆゝまゝゝ〜ゝちゝゝのゝに
あゝいまゝ〜ゆゝりゝゝ〜とゝひゝんとゝおゞとゝう〜
ゝうゝあゝゝしひゝちゝんゝけゝんゝ〜ゝとなゞゝ〜ゝてゞゝざゝう
まゝをゝうゝう　金ゝがゝあゝるゝゝうゝ〜ゝゞゝたゝゝよゝゞあゝまゝん
ゝあゝでゝもゝなゝゝんゝとゝゝゝあゝうゝゝことゞゝゞよ
ゝゝろゝゞゝきゝゝんゝうゝ〜ゝずゝゝゝゞん
まゝゝめゝゞゝゝかゝゝやゝゝあゝゝゝさゝゝゞゝて
ゞざゝりゝまゝうゝをゝとゝたゞゞひゝにゝろゝりゝく〜と
にゝ〜とゝひゞし〜りゝれゝゆゝゝゞん

かくてゆくみぶのくまちくいろうやどを
ひめとするにいろうさにそもやどをかさど
ふーぎにあひところのものにさづければ
ひさしく八一袖んに一度であるものの矢たつとあるーにそのひくろう
女の子をひとあでくろうにあるなろうせゆそうくやひさしく一ぢんのりく
ぶげんのかどんちゃ矢たちーゆくこころひろあるーんのりく
人めでくろうをおろるゆえんにひさしくゆくなろうくいをゆとをおのく
ひとまりあるいひとゆひけるにどなるろいのゆくーしくあひ矢の
たちーといひくーくにいろう見れば門のをーーく白羽の矢のぶふ
ぬつけてあるかどなく門のうちろう六角の白木のごーにあめを
まろたぜいのあたいまろとくーにかきいどまとふそこれぞろの人ゆ
でくろうなるだーとあひ神ハ人とたをけたまふとりてそゆいの門の
しゆうぐとのふちるにあのれがうちこの命をとるでくろのーやーん
なるくハひれとその神をたいぢなーーひをあ地ひくの人の命とにをけるゆ
ちゆくんがうれのつのふくるなるーとりのりくきとあめー
あとにつきてゆうじんのりへといそぶ〻

これーろなるゆうひとあでくろ心のろ、小さぎむろのゆうちゃとかと
ま、ゆめつるぎのゆくへくきちのたまろハこうくんにかーくゆるを

山東京山作

春亭画

文化六己歳
清奥

文化八辛巳年

繪本りんの太

娘楠後編三冊　近江屋權九郎版

且説ひとめどくろとゞーるさと人らいてふぐたいまりを
てに咎とさえん水とけてりやくまりーどんのりくいてりぬ
浪五郎はめとにつきてはところにいりとうけふ身を濡て
こゝのりうもとうかひりさそいけゆえとーもどにてこにぎるい
しるやくさと人ぶさーづそいけゆえをふるゆーろのまふもさも
そればさと人らくるさうゆーめひてうづくまりゆくれいひとく
るゆりさおりうかしてゆどりくゆれひとくるのうらりるる
いとるびるるしゆりるどくーるるくやくさらひを神の四りる
すどりりどーくるにゆりるしのりとをくるゆくけるよ
りりぎや神前ゆりるゆくーくやゆるりどりる
びりりゆれば二人のくやくさと人よりりひさてて明神
ゆりりとりりくしゆりりゆりりり

十六

▲せんぐのくろうとうびくらうふとうひつくまれのつくしにてあやくとにしけくるひ

おやのうさきくぐーや

「さてさてこまったものだ」

「うつくしやあてあさをせく
はあまりうれ
えびそろく
あるあん」

「りーおうーさん
あるこふまぎろうんほる
ちろいせんうんのんーて
おしんうんーあれをを
あんをそあうーんをいる」

くすのき
高馬駄賃
浮世勇書
伴
独り
眺歩る
角の
平
不解心
三
莫世天
呉服
丹
すけざえもんの
ふところにはいる
雲雨の場へ入りけり
あらまほしき
しまさきふてう

丹七

丹七

くすのき
小すがたいろに
まろげんの
さるぶきとは
丹七と
とものは
どに
いろて
楚王が
ゆめをむすんと
ちくらしがゆめのぞく
ちべーありてゆめのぞく
おとにおどろかむできて
あくろをヨるにこりびい
きえてゆめあやめも
いろさされば
いろにと丹七を
よびにこそ
せぶれかまろく
おどろくこと
とりしべ
ゆげて
あくろを
ヨんるに
丹七
目ローろ
ちをたをそ
ふーのころ
「ぶんとものはしらそも
このむわこと
とアやまあ
うんとしこ
あて
ろ

小すがたいろに
大ふあらて
ぶんあとして
丹七ろくと
こるのろぶり
よびけるに
かろうく
しかろさ
つこさ
いろあを
ぎあて
ぶろくふろく
あるあをもやく
今ありてのの
力のざるのろう
これにろぐさる
こそふのーと
ろふどぐろうを
さくとぐあ
小すがぎ丹七が
えかつぐぐてちんふるゆと
のこまふこやものにあをこれるひーくと
えぶのこられてころつきろろろてといはるふ
られらうまれつきてこんんとふかあひあ
らーひきーくおこくざしぐりふーてる
そのやまうひめのおこしろりこれにてに如め
まこにかをむべーもんふるんぶいりて
かとくくたまりくとりつくやだいちあんぎそんゆぶど
▲かく
やまりめ
あろう
ろひー
とそそく
をとつけて
くのろくすぶ
女房のかくあん
ぶりいろーよに
うちふ
ゆさんと
いつて
丹七ろろく
いつて
ひろあと
つこそく
うちうん
あく人かど
食ハあーさ
ものと
えんこう

年のさ

巳春新版目録

式亭三馬著
善悪両面 於竹大日忠孝鏡 全五冊
勝川春亭画

式亭三馬作
親敵空気焔 全三冊
勝川春亭画

山東京山作
島村恋塚 浦島蜃楼 昔語夜船始 全七冊
勝川春亭画

十返舎一九著
檀坦 書良之新 支海 離左門 反忠西海硯 全六冊
歌川國貞画

山東京山著
宮城野信夫 小説娘楠樹 全六冊
勝川春亭画

十返舎一九著
後仇 奥州瓶割阪 全三冊
喜多川月麿画

十返舎一九著
蔦市郎三蔵 今様慶太七 八丁堀意恨仇討 全八冊
歌川國貞画
一名江戸南山明石志賀之助かたきうち

近刻